

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(平成23年6月解析分)

1 疾患別定点情報

(1) 定点把握(週報)五類感染症

平成23年5月分(平成23年5月2日～平成23年5月29日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	422	0.93	0.74	↓	10	百日咳	17	0.06	0.15	↘
2	RSウイルス感染症	65	0.23	0.07	→	11	ヘルパンギーナ	77	0.27	0.31	↑
3	咽頭結膜熱	215	0.76	0.64	↗	12	流行性耳下腺炎	224	0.79	0.71	↘
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	599	2.11	1.84	↘	13	急性出血性結膜炎	0	0.00	0.03	
5	感染性胃腸炎	1,389	4.89	6.33	↓	14	流行性角結膜炎	91	1.20	1.27	↗
6	水痘	337	1.19	2.04	↗	15	細菌性髄膜炎	0	0.00	0.01	
7	手足口病	427	1.50	0.69	↑	16	無菌性髄膜炎	3	0.04	0.04	
8	伝染性紅斑	180	0.63	0.25	↗	17	マイコプラズマ肺炎	16	0.19	0.28	↗
9	突発性発しん	147	0.52	0.56	→	18	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	

(2) 定点把握(月報)五類感染症

平成23年5月分(5月1日～5月31日)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
19	性器クラミジア感染症	50	2.17	2.32	→	23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	104	4.95	5.16	→
20	性器ヘルペスウイルス感染症	20	0.87	0.85	↗	24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	30	1.43	1.54	→
21	尖圭コンジローマ	10	0.43	0.72	↘	25	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0.00	-	
22	淋菌感染症	22	0.96	0.99	↗	26	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0.00	0.11	

「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)

報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

薬剤耐性アシネトバクター感染症は、平成23年2月1日から届出対象となったため、過去5年平均データはありません。

急増減疾患!!(前月比2倍以上増減)

急増疾患 手足口病(174件 427件)
ヘルパンギーナ(20件 77件)

急減疾患 インフルエンザ(3,374件 422件)
感染性胃腸炎(3,398件 1,389件)

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象18疾患,月報対象8疾患)について、県内178の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13,14	19～22	15～18,23～26	
定点数	43	72	19	23	21	178

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	69	結核(69)〔西部保健所(8),西部東保健所(2),東部保健所(10),北部保健所(3),広島市保健所(32),呉市保健所(4),福山市保健所(10)〕
三類	3	腸管出血性大腸菌感染症(3) O157〔広島市保健所〕
四類	4	A型肝炎(1)〔福山市保健所〕,日本紅斑熱(3)〔東部保健所(2),呉市保健所(1)〕
五類全数	14	アメーバ赤痢(3)〔西部保健所,広島市保健所,呉市保健所〕,ウイルス性肝炎(2) B型(1)〔広島市保健所〕 C型(1)〔広島市保健所〕,急性脳炎(2)〔広島市保健所〕,クロイツフェルト・ヤコブ病(1)〔呉市保健所〕,破傷風(1)〔広島市保健所〕,風しん(3)〔西部保健所,西部東保健所,東部保健所〕,麻しん(2)〔広島市保健所〕

3 一般情報

(1) 手足口病について

手足口病は、乳児・幼児を中心に夏季に流行が見られる急性ウイルス感染症ですが、感染症発生動向調査による定点医療機関からの患者報告数では、4月の174人から5月には427人と大きく増加しました。特に西部東保健所管内(東広島市,竹原市,豊田郡)では第22週(5月29日~6月5日)から、北部保健所管内(三次市,庄原市)では第23週(6月6日~6月12日)から、国立感染症研究所が示している警報レベル(定点当たり5.0)を上回っていることから、注意が必要です。

病原体	コクサッキーウイルスA16型,エンテロウイルス71型,コクサッキーウイルスA10型など
症状	感染から3~5日の潜伏期間の後に、口腔粘膜,手,足などの四肢末端に2~3mmの水疱性発疹が現れます。発熱は軽く,通常高熱が続くことはありません。一般的には,数日間で治癒する予後良好の感染症です。ただし,発疹の初期2~3日の症状の変化には注意が必要で,特に,元気がない,頭痛・嘔吐を伴う,高熱を伴う,発熱が2日以上続く,などが見られた場合には,かかりつけ医に受診するようにしてください。また,まれに重症化や合併症を伴う場合があり,特にエンテロウイルス71型に感染した場合は,髄膜炎,脳炎などの中枢神経系合併症を生ずることが比較的多いので注意が必要です。
感染経路	飛沫感染,接触感染,糞口感染で,主症状が回復した後も比較的長期間にわたって便などからウイルスが排泄されることがあります。
予防方法	排泄物の取扱いについて注意すること及び手洗いの励行が基本となります。

(2) ヘルパンギーナについて

ヘルパンギーナは、夏季に流行する小児の急性ウイルス性咽頭炎で、いわゆる“夏かぜ”の代表的な疾患ですが、定点医療機関からの患者報告数では、4月の20人から5月には77人と大きく増加しました。

病原体	主としてA群コクサッキーウイルス
症状	突然の発熱に続いて咽頭粘膜の発赤が顕著となり,口腔内に小水疱が現れます。小水疱はやがて破れ,疼痛を伴います。潜伏期間は3~5日とされています。 ・喉や口の中が痛く,食事が摂りにくい場合は,あまり噛まずに飲み込めるやわらかい物を与えましょう。 ・高熱が出ているときには,脱水状態にならないよう,水分の補給を充分に行ってください。
感染経路	接触感染を含む糞口感染と咳などによる飛沫感染です。急性期に最もウイルスが排出され感染力が強いのですが,回復後も2~4週間の長期にわたり便からウイルスが検出されます。
予防方法	乳幼児のオムツ交換の際には,手洗いを励行し,洗濯物は日光で乾かすことなどです。

(3) 伝染性紅斑について

伝染性紅斑は、両頬がリンゴのように赤くなることから「リンゴ病」と呼ばれる幼児を中心に流行する感染症ですが、定点医療機関からの患者報告数では、4月の126人から5月には180人と増加しました。特に西部東保健所管内(東広島市,竹原市,豊田郡)では,第18週(5月2日~5月8日)から国立感染症研究所が示している警報レベル(定点当たり2.0)を上回っている状態が続いており,注意が必要です。

病原体	ヒトパルボウイルスB19
症状	感染後10~20日で出現する両頬の境界鮮明な紅斑が特徴で,続いて腕,脚部にも両側性にレース様の紅斑がみられます。発熱はあっても軽度です。 成人では,両頬の紅斑は少ないですが,合併症である関節痛・関節炎の頻度が,小児の約10%以下と比較して成人男性で約30%,成人女性で約60%と高率です。また,妊婦が感染すると,胎児水腫や流産の可能性があります。その他,免疫不全症の方が感染すると,治療が必要な慢性の貧血となる場合もあります。
感染経路	このウイルスはヒトのみに感染し,飛沫感染が接触感染による気道からの感染と考えられています。
予防方法	手洗いが基本となります。特に妊娠されている方は,流行時期には人ごみを避けるなど注意しましょう。